



## エコ・ファーストの約束

～環境先進企業としての地球環境保全の取り組み～

2026年1月14日

環境大臣  
石原 宏高 殿

加山興業株式会社  
代表取締役 加山 順一郎

### 2030年までに搬入される廃棄物の リサイクル率90%を目指して取組みを推進します

- 廃棄物の入荷量/リサイクル率を毎年モニタリングし、それぞれ2030年までに92,055t/90%の目標達成に向けて邁進していきます。
- 今後大量廃棄が見込まれる廃棄太陽光パネルのリサイクル設備を導入し、廃棄問題の解決に貢献していきます。
- AI搭載の廃棄物選別ロボットを導入し、リサイクルするために高度な選別が必要である混合廃棄物に対して、AI画像認識にて多種多様な廃棄物を高精度に識別できる仕組みを構築しています。2030年までに搬入される廃棄物のリサイクル率90%を目指して取り組みを推進しています。
- 「使用済紙おむつの再生利用プロジェクト」を始動しています。おむつ分別装置を用いてプラスチック類とパルプに分別処理を行い、各資源化素材の状況を確認し、副産物の資源化の検討、事業化の検討を推進していきます。

### 出張環境授業・工場見学の受入をします

- 出張環境授業・工場見学の受入を2012年より継続して行っています。  
「資源循環」「生物多様性」についての理解を普及・啓発をします。





## エコ・ファーストの約束

～環境先進企業としての地球環境保全の取り組み～

2050年までに、加山興業全体での  
カーボンニュートラルを目指します

- サプライチェーン全体での温室効果ガス排出量を公開しており、Scope1：2035年の二酸化炭素排出量について2025年比で42%削減、Scope2：排出量ゼロ達成維持、Scope3：固有値計算を随時行っています。
- 再エネ電力100%利用、CO<sub>2</sub>排出係数の低い燃料への切り替え等を行い、廃棄物処理にかかるCO<sub>2</sub>排出量を削減しています。また、脱炭素経営構築に向けた可視化支援を広めることで、自社だけでなくステークホルダーの脱炭素推進にも貢献していきます。
- 循環経済への移行に関わる部門由来の温室効果ガス排出量削減が見込めるRPF燃料の製造を推進しています。経年で生産量をモニタリングし、2030年までに年間30,000tの生産を目指します。

### 生物多様性の保全に資する活動を行います

- 自然資本の保全の概念をマテリアリティとして経営に位置付け（KAYAMA自然「回復」プロジェクトとして、3拠点における生物多様性の回復に向けたロードマップ・インパクトを策定）、取り組みを推進していきます。

加山興業株式会社は、上記取り組みの進捗状況を確認し、環境省へ報告するとともに、ホームページなどで定期的に公表します。

